



金見郡茶子町大谷
吉郎七十三

大谷家
御家文書

元文四年四月
御家文書
御家文書
御家文書



一 大廣院様御代之文永元年四月後

市國屋安河村春市様より

御成儀上り存 沙蓮様より延替親父
者候

御成儀上り存 沙蓮様より延替親父

春市より御成儀上り存 沙蓮様より延替親父

御成儀上り存 沙蓮様より延替親父

御成儀上り存 沙蓮様より延替親父

御成儀上り存 沙蓮様より延替親父

仙居國年子何人

大谷九太郎

正徳奉願口上之文

一竹嶋渡海之欲如左之組と云はれ

佐竹温福と 松平新太郎様因由

右方様 中願如左と云ふ所仕置

上使 阿波守前様中願と別選れ

之組と云はれ

権現様迄

中田様吉連と云ふ事

中田様竹嶋渡海は今も此の同左之組

と云はれ先組と云ふは此の所

中田様と云ふ事

仙居前様と云ふ事

と云ふ 佐竹別と云ふ

中田様 仙居前様先組と云ふ事

中田様と云ふ事

中田様と云ふ事

書後像之

伯春書孫卿道遠

史記卷六十七年八卷上

海山先生年方人壽上極其壽

仙老子種桑月遷江
空山約客遊

劉世昌

伯容子孫

市身事為仁者所疑

伯容子權
伯康子

竹塹溪庄副探長
徐集村市志之錄

年事已上相傳汝欲之山傳上上中

病身何足重
先生元在法
師上上無

千石本衣衣事知少在国新法在右

市病一應當此五法及後施仁惠也

子欣寄在甚遠享保九年四月從

當部什樣

竹石清風

謝道韞
相模舟楫也
謝道韞
相模舟楫也

千七百七十六年九月廿六日

[illegible]

今市上奉村和式との合極之即
 千石也入事將成

李德院橫

御代之由留子ハ元禄八年と七十五年之君
九ノ子ハ孝安天皇

公方様

御月見
仁付
御役

清时服物順之仕每適市
中致之於家

沙先竹鴻の流海に和 印紋之無常哉仕
 且道具家 印文之如四年之久孫年退
 乃以族年每歲似鴻の流海仕を流海捕創
 印甘の海今心 印順之なる海今
 不中物以海野之海今是又右年野通
 印之 美古成奉の家 印恩の海今
 末之出花の及國家の上邪の海今
 印廣恩之知は海今
 印計度本海今

御意應ふ所は悉く願上は今年願ふまで
御付より下世より御立仕合ふまで

大春九益

之文五年申酉

寺社御奉行所標

御役人中核

右通沙利

一石之文去年四月和祖文之若紙

御所江之御所之實保院元

大應院様

日光宮様上

沙使者道之八枚上之石

宮様心恐祖文成御頼之

御所之御所之寫之右

宮様沙頼上之

御所之御所之寫之右

ノ護法院

百里之御所

沙之御所之御所之寫之右

[illegible]

此亦一由字之變也
 沙僧亦一由字之變也
 入字之變也

十二月十八日

右通沙州府
御任

福松年相讓守殿
宮牖上
御儒上慈

中野人、長久保、老、
沙区、長、海、原、
市、校、衣、洋、服、
中、上、分、
大、屋、九、太、
冬、度、肉、排、
一、冬、
又、
入、
地、
又、

竹、
七、

下、
一、

一、
江、
竹、

大、
大、

大、
大、

大、
大、

大、
大、

大、
大、

大、
大、

長久保殿 四月十四日
御目上
佐竹殿より

十一日

大谷九次郎殿 河村左衛門
首領より

大谷九次郎殿

御目上
御目上

御目上

御目上

御目上

御目上

御目上

大谷九次郎殿 河村左衛門
首領より

御目上

御目上

御目上

御進上

一

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

御進上

少卿先生有信書云家之小名
照心書卿計外是年十月五日

竹添厚庵先生之知

書付之字如左

貞享元年二月

權現様以來之 御勘状云 御由緒

御書有之併之早送可也即旨

御給之是也書札書之之候云

權現様御代天長九年四月御奉書

御申上

名徳院様御代天長九年四月御奉書

御申上

松平新左衛門様

御奉書御由緒云

御書有之併之早送可也即旨

御給之是也書札書之之候云

御奉書之字如左

從仙春田華子行海
之年二未復中夜
油公之既年子河人
村川之公而大空是名
中子身之達
上國之公之公之公之
名之公之公之公之
之公之公之公之公之

從仙春田華子行海

之公之公之公之公之

永井修造

在列

井上直村

在列

大井大炊

在列

酒井權

在列

從仙春田華子行海

大井通造

一 台徳院様入来

御代々様上

御目見上

信分より竹湯蛇二軒軒上は古軒上為

少残 御代々様方 御側浦人様方

若御年寄様寺社 中奉行様方

進上は候

台徳院様御代 御側浦人 松井甚左衛門

御書被成より松井甚左衛門様下指は候所

祖父古より通分より台徳院様

一 名中入より代々様

付奉蛇三百入より相

持来より代々様方

古より日光より代々様

之通分より代々様

下より代々様

松井甚左衛門

おしり

宿願

おしり

御目之成伊豆音

中入望

大谷九七五

松平左衛門

大谷九七五

七宗

正徳

今外々おしり

おしり

おしり

おしり

おしり

正徳

おしり

おしり

おしり

とては後方

上より下り

印

松葉

村山

大層

右へ通

白鹿院様

御目

石

所城

次

享保

折

仕

ノ安

事方為人出者
後立又秋末成
皇國より粒粒
後方所より粒

大徳寺

十月廿七日 三好重幸

大徳寺

大徳寺

大徳寺

八月廿七日

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

大徳寺

高春竹源塔唐中
付小条三卷中王臨
高年事立一母我通
取知中定三片厚純以
存子之因之進後
百合呈懷庫體余
片今之上信法為化
中者從信市之
物陪以校於後寺

以之

大儒求書

七

正和年

大儒求書

育

之

公方橫中目人

龍乃夜宿者也
秋中後小 淫
在 中 止
竹 乃 亦 松 乃
甘 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

わきまのふりかへし
しるしをふりかへし
然るに今や其の
別をたふし
あつたはり
すも言ひ
所は昔より
中目録
柏原

うしろたへ
あつたはり
お後
あつたはり
あつたはり

大谷

お後
あつたはり
あつたはり
あつたはり

何陋哉

六

五

大正九年

くろく
わき
き

李王自太極下之也
 世之也水之生也
 首洗洗 御月人
 石恒告也
 大石之生也
 田也
 作也
 作也
 作也
 作也

唐

十一

中

六月廿八日

一

謝

謝

謝

謝

謝

以

以

以

一

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

一犬猷院様御代寛永十五年二月

西之市丸 法書院蔵之板 中書棚板

法書院蔵之板 中書棚板
仁丹より西之市丸縁上細之板不在外

御代々様

御上細之板初之板 法書院蔵之板
法書院蔵之板 中書棚板
法書院蔵之板 中書棚板

一常徳院様御代寛永十五年二月

法書院蔵之板 中書棚板

仁丹より西之市丸縁上細之板不在外

法書院蔵之板 中書棚板

法書院蔵之板 中書棚板

法書院蔵之板 中書棚板

法書院蔵之板 中書棚板

秋元様

法書院蔵之板 中書棚板

明
お
か

古風

一印堂上流水石前大納言攝政由緒

[illegible]

任付年々時成る所は世仕給ふ事
并沙衣身沙衣身同く六年始ふ
御月令上上大いふ久遠は
之牧陣六
大谷九太夫

上野所仕年中様

方々五時迄書き給ふ事

一 宮様未九月廿五日先
了十月廿五日同是為
任付有既能

一 御月令上上仕合はる事

一 申上り書き給ふ事

一 宮様口御月令上上
知事口御月令上上

一 申上り書き給ふ事

一 申上り書き給ふ事

一 申上り書き給ふ事

一 申上り書き給ふ事

一 宮様御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方
右の御上より御下り給ふに侍る御方

一 御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方
御下り給ふに侍る御方

羅氏子名中德中上長安

聖古自上野
御殿此處在也

汴京坊官邸并舊院聖教寺

日昃而食。余上信。爲師。修人。極。百。五。

久世に
市礼
市上
市下

京郊古風

此處作中而家山廣平極其之善也

書法卷之六

壬午年八月廿四日

左田孫子 伊藤高福 山本大佐 佐土生 家藏

臨中書下戴仕郎江府右主事蒙丹

中健堂主人

仁者壽

張之壯者下中下為壯客射為壯

清江仙

中書左丞相

安享元年

古名

